

廃バッテリー

輸出単価が最高値水準

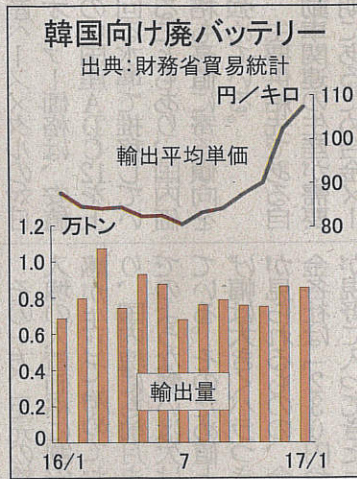
韓国向け1月 5円上昇 107.3円

財務省が発表した貿易統計速報によると、1月の韓国向け廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の輸出平均単価はキロ107

・3円と、前月よりキロ5円上昇。海外鉛相場上昇と為替の円安が背景にあり、約2年ぶりの最高値水準に達した。輸出量は前月比0

・8%減の8542トで、2カ月連続の800ト台だった。鉛リサイクル原料の廃バッテリーは、二次精錬業が盛んな韓国への

の流出が続いており、日本国内の鉛リサイクル業の空洞化が問題視されている。昨年1年間は前年比28・5%増の9万6893ト（月



平均8088ト）が輸出され、特に8月以降は大きな増減がなく安定している。廃バッテリー単価と

の指標とされるロンドンの金属取引所（LME）鉛相場の月間平均は、昨年6月から1月まで7カ月連続で計31%上昇している。為替が円安に傾いた11月からは急上昇し、3カ月で19・9円（19%）アップ。2014年12月に記録した最高値107・5円に次ぐ過去2番目に高い水準だった。

主な積み出し港の輸数量と輸出平均単価は、東京港2780ト（105・4円）、大阪港784ト（106・1円）、門司港723ト（108・1円）、石狩港580ト（108・2円）、名古屋港499ト（105・1円）、清水港445ト（107・6円）、横浜港390ト（102・8円）と続いた。全ての輸出港において100円を上回り、最大積み出し港である東京港からは8

カ月ぶりの多さだった。輸出先の韓国では昨年6月、二次精錬業による残渣の違法処理が発覚し、メーカー幹部が拘束された。こうした事態を受けて経済産業省は先月、輸出承認済みの案件でも不適正処理が疑われる場合、輸出を停止できる措置を取った。さらに環境省は、輸出先の適正処理を証明する書類提出を盛り込んだバーゼル法改正案を策定、今夏からの施行を予定している。